



島根県における 発達障がい児支援待機0(ゼロ)プロジェクト

小児科

診療科長・教授

たけたに たけし
竹谷 健

子どものこころ診療部 部長

はやしだ まいこ
林田 麻衣子

10人で1人の割合で存在すると言われている発達障がいの子どもたちの多くは、診断をしてもらう施設が少ないこと、養育を受ける環境が十分ではないことなどから、迅速に正しい診断や適切な支援を受けることができない状況が続いており、社会問題に発展しています。島根県でも診断・支援を受けるまでに3～6か月以上かかっているため、診断・支援の遅れにより2次障害(学力低下、不登校、いじめ、引きこもり)が増加して、子どもだけでなく家族や教育現場も疲弊しています。また、この分野における人材及び資源の不足により支援側の負担が激増しています。

そこで、今年度から2年間の計画で、発達障がいの子どもたちが待つことなく迅速かつ適切な支援を受ける事ができることを目的として、発達障がい支援パスの作成、発達障がいWebサイトの開設、医療・教育・福祉・行政との実効性のある連携、支援を行う人材の育成・啓発活動、地域ごとの支援体制の構築を行うプロジェクト(図)を開始しました。

このプロジェクトを成功させるためには、これまでこの分野で先駆的な取り組みを行っておられる島根県の発達障がい者支援センター・教育機関・医療施設、発達障がいの子どもたちとその家族の皆さまなどのご協力が不可欠ですので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【発達障がい児 支援待機0(ゼロ)プロジェクト】

- ・発達障がい=病院にかかるのではなく、子どもが生活するその場面ごとで適切な支援が提供されることを目指す。
- ・受診を受けていない子どもではなく、なんらかの支援を受けていない子どもを0にする。
- ・子どもの状態に応じた適切な支援の流れを構築する。

1：標準的な発達障がい支援パスの作成・普及

子どもの行動に不安を抱いても、医療的な支援が必要なのか、地域にどのような援助資源があり、子どもにはどの援助資源が適切なかが理解できるよう、地域の実情を踏まえて標準的な発達障害の支援パスを作成、普及する。

3：こどもの社会生活を支える医療サービスの構築

かかりつけ医による診断と治療
発達障がいの日常の医療をかかりつけ医が担えるよう対応力を向上し、かかりつけ医を増やす。

かかりつけ医支援体制

かかりつけ医と連携して支援する医療機関だけでなく、検査を実施する機関、カウンセリングをする機関(ATスプリット)を整備する。

専門外来を要する複雑な症例の明細化

各機関の症例報告・調査、有識者等の報告・調査を行い、ワンストップの医療を実施する。

2：早期発見

+ 早期の家庭支援
子どもの状態をアセスメントし、家族への助言や支援、子どもの状態にあった援助資源につなげる。

+ 早期の受診促し
子どもの状態をアセスメントのうえ、医学的な対応が必要なケースは地域のかかりつけ医につなげる。

4：医療と学校の連携

- ・学校から病院への相談を形式化したうえで門戸を開く。
- ・学校との医療相談費用を予算化する。
- ・学校の相談窓口を一律化。

5：医療と福祉の連携

- ・医療と福祉の資源を洗い出し、エコマップを作成する。
- ・顔の見える研修会、情報交換会の実施。

発達障がいWebサイトの開設

6：援助を申し出やすい風土づくり

子ども自身からの援助要請行動
・学校メンタルヘルスリテラシー教育の実施、講師派遣。
・合理的配慮の実行化と事例の蓄積。

非専門家支援者
ユニバーサルな支援方法を習得し、発達障がいの有無にかかわらず、地域の大人が子どもを支援できる。

